白井大師　第17番　折立・来迎寺

1　名称　(No.017)〔大11：来迎寺〕〔昭63：来迎寺〕〔平08：来迎寺〕〔平17：来迎寺〕

2　場所　白井市折立266　来迎寺

折立・山口大師から道程約330m

GPS座標 35.80868093126197, 140.0432922427127

3　由緒　天台宗無量山最勝院来迎寺(らいこうじ)

折立村字屋敷前にあり 無量山最勝院と称し天台宗にして泉倉寺末なり 創建不詳 元禄14年5月14日火災に罹り十年の後再建し以て今日に至る 阿弥陀如来を本尊とす 檀徒80人（印旛郡誌）

4　御堂　大師堂が見当たらず石柱上部に浮彫りの御大師様(1907年・明治40年造立)が１体あり。ほかに文久3年(1863年)造立の丸彫りの御大師様はいずこに？

5　境内　本堂や火伏せの公孫樹、白井七福神がある。印西大師番外。

6　写真　(2023.11撮影)

御大師様

御大師様

御大師様

銀杏と本堂

御大師様

本堂前の銀杏

7　情報

(1) 四国八十八ヶ所 第17番 井戸寺 御詠歌

おもかげを うつして見れば 井戸の水 むすべば胸の あかや落ちなん

真言宗善通寺派 瑠璃山(るりざん) 真福院 井戸寺(いどじ)

本尊 七仏薬師如来　徳島市

(2) 来迎寺

来迎寺は、承久年間（1219～1221年）の開基といわれています。本堂内には本尊阿弥陀如来

坐像のほか、白井市指定文化財の木造阿弥陀如来立像、木造不動明王立像、木造毘沙門立像、木造閻魔王坐像、木造奪衣婆坐像が安置されております。境内には火伏せの霊樹とされるイチョウの巨木があり、白井市指定文化財となっています。また、しろい七福神の布袋尊が祭られています。（千葉県公式観光物産サイト）

(3) 来迎寺の仏像群（5躯）

承久（じょうきゅう）年間（1219～1222年間）の開基と伝えられる天台宗延暦寺派の来迎寺には市指定文化財の仏像が、本堂に5躯（く）安置されています。その内訳は（写真の左から）木造阿弥陀如来立像（あみだにょらいりゅうぞう）、木造不動明王立像（ふどうみょうおうりゅうぞう）、木造毘沙門天立像（びしゃもんてんりゅうぞう）、木造閻魔王坐像（えんまおうざぞう）、そして木造奪衣婆坐像（だつえばざぞう）で、阿弥陀如来立像と不動明王立像、毘沙門天立像が鎌倉時代後期頃の作、閻魔王坐像と奪衣婆坐像は江戸時代後期の作とされています。閻魔王坐像と奪衣婆坐像の製作者は不明ですが、江戸末期の4名匠の1人とされる松本良山（まつもとりょうざん）という仏師が修理をしたことが確認されています。これらの仏像は元々市川市八幡にある葛飾八幡宮の境内に所在した法漸寺（ほうぜんじ）という寺院に所蔵されていました。しかし、明治2年に行なわれた廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）の際に損失される運命となり、それを恐れた来迎寺第14代住職である内田恂達（うちだじゅんたつ）師がお寺の什物（じゅうもつ）として納めました。

なお、阿弥陀如来立像と不動明王立像、毘沙門天立像が平成5年に、閻魔王坐像と奪衣婆坐像が平成3年に修理が行われています。（白井市ＨＰより）

※「奪衣婆」　三途の川のことは、死出の山とともに説かれるが、仏説ではなく、俗説である。三途の川のほとりには衣領樹（えりようじゆ）という大樹があり、その下に奪衣婆（だつえば）、懸衣翁（けんえおう）という鬼形の姥と翁がいて、姥は亡者の衣服を奪い取り、それを翁が受け取って衣領樹に掛ける。亡者の生前の罪の軽重によって枝の垂れ方が異なるという。（世界大百科事典より）

(4) 来迎寺の公孫樹

言い伝えで、元禄十四（1701）年に寺院を含む折立村が火災に遭った際に焼け残ったため「火伏せの公孫樹」とも呼ばれ、信仰を集めています。なお、現在も火災の影響で主幹が2つに分離し、一部炭化している箇所がみられます。幹周り510センチメートルは市内でも最大級のもので、市内を代表する巨樹のひとつです。（白井市HPより）

(5) 白井大師第11番か、第17番か

「白井組合大師札所寺院部落（白井谷清大師寺院札所二十六か所）」（小名内・梶原家古書の写）には、白井大師第11番札所は「折立　山口宅（内神）」で、第17番札所は「折立　来迎寺」とあります。しかし、別の資料（「白井谷清村大師巡回簿」白井市郷土史の会「たいわ」No.37）によると、第11番は来迎寺で、第17番が「折立　個人宅（山口家カ）」となっています。